

# 「小さな自然再生」事例集編集委員会

JRRN 事務局／リバーフロント研究所 後藤 勝洋

## 1. 「小さな自然再生」事例集編集委員会

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）では、市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取組める「小さな自然再生」に関わる事例集の作成を、編集委員会を立ち上げ、有志による協働で行っています。編集委員会は、本分野に精通している7名の学識委員と、本企画に賛同し参加いただいた8名の若手の公募委員の計15名で構成されます（表1）。

表1 「小さな自然再生」事例集編集委員会名簿

氏名	所属
伊豫岡 宏樹	福岡大学 工学部社会デザイン工学科
岩瀬 晴夫	(株) 北海道技術コンサルタント
甲斐 崇	(株) 四電技術コンサルタント
菊池 佐智子	山梨県富士山科学研究所 環境共生研究部
瀧 健太郎	関西広域連合 本部事務局
竹内 えり子	(株) 建設技術研究所 東京本社環境部
田中 五月	一般社団法人 ClearWaterProject
中島 満香	ブライスウォーターハウスコーパス (株)
長山 昭夫	群馬工業高等専門学校 環境都市工学科
浜野 龍夫	徳島大学大学院
林 博徳	九州大学大学院工学研究院
原田 守啓	(独) 土木研究所 自然共生研究センター
三橋 弘宗	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所
宮尾 徹	(株) 建設技術研究所 東京本社水システム部
吉富 友恭	東京学芸大学 環境教育研究センター

(敬称略、五十音順)

今年度の6月に編集委員会を立ち上げてから、これまで3回の会議を開催し、事例集の構成や内容、デザイン等について協議を行ってきました。現在(2015年1月時点)、事例集の原稿のデザイン・編集作業を進めており、玉井信行先生(東京大学名誉教授/JRRN顧問)による監修を経て、3月中には事例集を発行する予定です。

## 2. 「小さな自然再生」事例集の概要

本事例集の主な対象とする読者は、地元の河川や水辺で活動している市民の方々を想定しており、本書を通じて「小さな自然再生」に興味を持ち「私たちもやってみよう」と思ってもらいたいことを狙って、内容を検討しました(下記目次参照)。

本事例集は4章立てとなっており、「1. 水辺の小さな自然再生とは」では、「小さな自然再生」の定義や基本的な知識を、「2. 水辺の小さな自然再生を行うための留意点」では、河川管理者の許可や地域住民との調整・連携、治水や景観への配慮など、「小さな自然再生」を行うに当たって知っておくべき必要事項を、「3. 事例紹介」では、執筆者である編集委員それぞれの思い入れのある16の事例(写真1)を、「4. 『小さな自然再生』座談会」では、国や現場の技術者が参加して開催された座

### 水辺の小さな自然再生 事例集 目次

1. 水辺の小さな自然再生とは
2. 水辺の小さな自然再生を行うための留意点
3. 事例紹介
  - ①北海道/駒生川  
～サクラマスがのぼる石と木による手づくり魚道
  - ②神奈川県/黒須田川  
～硬い粘土でできた川底にも緑がよみがえる
  - ③愛知県/五条川  
～岸辺にみどりをつくると生き物が集まる
  - ④岐阜県/天神川 ～根固めブロックを並べかえて  
つくる逆転発想の魚道づくり
  - ⑤岐阜県/桂川 ～ハの字パーブで淵づくり
  - ⑥滋賀県/天野川  
～市民パワーの鋼製魚道で、カムバック・ピワサーモン
  - ⑦滋賀県/喜撰川 ～木箱をつかった手作り魚道
  - ⑧滋賀県/高時川  
～川の水が減ったときの逃げ場づくり
  - ⑨兵庫県/住吉川  
～急こう配の都市河川にもアユがのぼる

- ⑩兵庫県/安室川 ～川を耕して希少種を再生する
- ⑪兵庫県/佐治川  
～バイカモを再生するゾーンディフェンス
- ⑫兵庫県/羽束川  
～オオサンショウウオ専用の魚道づくり
- ⑬兵庫県/池尻川  
～三面張り水路をちょこっと再生する
- ⑭山口県/島田川  
～石組み職人的な「水辺の小わざ魚道」
- ⑮福岡県/室見川  
～石を掘りおこしてシロウオの産卵環境をつくる
- ⑯福岡県/上西郷川  
～小学生と大学生が力を合わせてつくる丸太式水制  
(特集) 上西郷川現地にて 島谷先生インタビュー
4. 「小さな自然再生」座談会
  - 巻末資料1. 編集委員紹介
  2. 小さな自然再生の現場へ行ってみよう  
(AQMAP 紹介)
  3. 参考図書

談会（後述）での討議内容を紹介しています。「3. 事例紹介」では、現場で工夫した点や失敗した点などの技術情報や、実施体制などのスキーム、現場で特に頑張っていたキーパーソンの紹介、使用している材料や工具など、現場を熟知されている編集委員ならではのアイデアによる、「小さな自然再生」の初心者の方が見ても面白い内容がまとめられています。



写真1 事例集で紹介している事例の一例

### 3. 「小さな自然再生」座談会

前述のとおり「小さな自然再生」座談会は、討議内容を事例集に掲載するために企画され、「小さな自然再生」に関わる関係省庁の施策との共通項や関連性を見出し、身近な水辺での自然再生活動への市民参加の更なる推進に向けた方策を導き出すことを趣旨として、下記の参加者で開催しました。

- 座談会名：「小さな自然再生」事例集制作座談会  
～小さな自然再生が中小河川を救う！  
更なる推進に向けた方策を探る～
- 開催日時：2014年11月26日（水）10:00～12:00
- 開催場所：リバーフロント研究所会議室
- 座談会座長：玉井信行  
(東京大学名誉教授、JRRN/ARRN 顧問)
- 座談会参加者：  
鳥居敏男（環境省自然環境局自然環境計画課長）  
中村圭吾（国土交通省国土技術政策総合研究所  
河川研究部河川研究室 主任研究官）  
岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）  
浜野龍夫（徳島大学大学院教授）

座談会の前半部では、事例集編集委員より、作成中の事例集の概要紹介に基づき、「小さな自然再生」の定義や留意点、これまでの取組みを振り返っての現場の実情、課題、工夫等について現場技術者より話題提供をいただきました。後半部では、「小さな自然再生」に関連する施策等について環境省

及び国土交通省よりご紹介いただき、今後の更なる推進に向けた技術面や制度面に関わる課題と展望について活発な議論が交わされました。討議内容の一例として、「小さな自然再生」の推進に向けた議論より示された課題（キーワード）を示します。

- ・「小さな自然再生」に関わるワンストップ窓口の設置（取組を始める際の総合相談窓口）
- ・動ける技術者の参加（有志で参加していただき、市民から信頼の得られる職人技を持った技術者）
- ・若手技術者の育成、そのための訓練の場の確保（ある程度の失敗が許容できる現場）



写真2 座談会の様子

### 4. おわりに

編集委員会では、今回の事例集は小さな自然再生の出発点と考えており、引き続き事例を収集して事例集の続編をまとめるとともに、事例集を参考書とした現場での講習会やシンポジウムの開催など、継続的な活動を考えています。また、収集した事例の位置情報などをウェブサイト（図1）より情報発信していますので、「AQMAP」と検索してご覧になってみてください。

本活動は（公財）河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。



図1 AQMAP画面 (<https://www.aqmap.info/>)

JRRNは、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に事務局の共同運営を行っています。